

令和7年度 学校関係者評価結果報告書

令和8年3月

評価対象期間:

自令和7年4月 1 日

至令和8年3月31日

公益財団法人

鯉淵学園

鯉淵学園農業栄養専門学校

学校関係者評価委員会

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の趣旨

鯉淵学園農業栄養専門学校における学校関係者評価の目的と基本方針は「学校関係者評価委員会規程」第1条に定める通り「鯉淵学園農業栄養専門学校（以下「学園」という。）が実施する自己評価結果の客観性・透明性を高め、学園と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。」ことである。

2. 学校関係者評価委員会の審議事項

鯉淵学園農業栄養専門学校における学校関係者評価の審議事項は同じく「学校関係者評価委員会規程」第2条に定める通り

- （1）自己評価委員会によって定められた自己評価の基本方針、実施体制、実施方法及び評価項目
- （2）自己評価結果に基づく改善策の提案事項
- （3）学校関係者評価報告書の作成及び公表方法
- （4）その他審議が必要とされる事項

3. 基本方針

鯉淵学園農業栄養専門学校における学校関係者評価は文部科学省生涯学習政策局『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

4. 委員会運営

学校関係者評価委員会を以下のように年2回開催する。

- （1）第1回目に実施する委員会は、前年度の委員会運用実績および報告に対しての改善計画を学校から報告する。
- （2）第2回目（3月）に実施する委員会は、当該年度実施した自己評価の概要を学校より報告し、評価・改善の提言を行う。

5. 自己評価の仕方

鯉淵学園農業栄養専門学校は、学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和元年度自己点検・自己評価を実施した。自己点検・自己評価の点検項目は、必須項目の16項目と重点項目の4つである。『鯉淵学園学校評価 自己評価結果』（令和7年度には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（上から A,B,C,D,E）を示した。また、項目ごと、職員の記載した現状および問題点と改善策を記載し、自己評価委員会の審議を経て学校関係者評価委員に提出した。

6. 自己評価の実施

期間：令和7年12月16日～12月22日

対象：パート及び役員を除く教職員（事務職員も含む）31名

7. 自己評価委員会の開催

令和8年1月23日（金）

自己評価委員会名簿

平原 信男	委員長 学園長
高田 良三	委員 アグリビジネス科学科長
大熊 哲仁	委員 食品栄養科学科長
秋葉 勝矢	委員 農業技術センター長
山本 春花	委員 管理部学務課

II 学校関係者評価委員 名簿

氏名	所 属	適 応
＊ ＊ ＊ ＊	笠間市立 ＊ ＊ 中学校長	中学校及び高等学校の 校長または進路指導担 当者
＊ ＊ ＊ ＊	＊ ＊ ＊ 地区民	地域住民
＊ ＊ ＊ ＊ ＊	公益社団法人 元会長	専門分野における業界 関係者
＊ ＊ ＊ ＊	＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ 里山農場（株）	専門分野における業界 関係者
＊ ＊ ＊ ＊	鯉淵学園同窓会	卒業生

※任期は令和6年4月1日より令和8年3月31日

III 学校関係者評価委員会の実施状況

令和8年 3月13日（金）

欠席委員：2名

学内関係者：平原 信男 学園長

高田 良三 アグリビジネス科学科長

大熊 哲仁 食品栄養科学科長 （次期副学園長）

秋葉 勝矢 農業技術センター長

山本 春花 学務課長
(前嶋 智 次期副学園長)

学校関係者評価委員会 進行状況

自己評価結果（評価）

○教育理念・目的	A
○教育課程の編成と授業科目	B
○教育の実施	B
○単位・卒業認定	B
○学生募集及び入学者の 定員・収容定員管理	B
○学生生活に関する支援	B
○教員の配置、募集、採用	B
○教員の組織編制等	C
○教員の資質向上	C
○教育環境の整備	C
○安全対策、防災組織	B
○中期事業計画と財務基盤	B
○学校運営	B
○学校評価の実施と改善活動	B
○社会からの理解と情報の公表	B

IV学校評価委員会評価結果

1. 評価の仕方

学校関係者評価委員は、鯉淵学園農業栄養専門学校の自己評価結果の評価の説明を受け、自己評価集計結果の内容及び自己評価結果の評価方法を理解した上で、鯉淵学園農業栄養専門学校が行った自己評価結果について意見・助言を口頭及び文章で表した。

2. 評価委員からの助言及び意見内容

(1) 教育理念・目的について

- ・これからの「日本農業」、「地域農業」を担う人材育成のための目的・目標を明確にすべきではないか。

(2) 教育の実施について

- ・具体的な企業連携とはどんなものか。

J A、6次産業の加工業者（栄養科も含む）、就職に関係のある会社、と考えている。

これらの業者との連携により就職だけでなく、授業への参画も視野に入れて授業をマネジメントしていく必要がある。学校 HP が充実しており、オープンキャンパスや学校見学会が計画的に実施されているのが良いと思う。

(3) 教育活動について

- ・学生を教育していく上で、教職員の自己研鑽は重要。学生も時代と共に変わっている。世の中の流れに応じた研修の充実化を願う。

(4) 学修成果について

- ・現在の「教育課程」では自営農業者や農業法人への就農希望者の育成にとどまっていると思われる。国や JA などとのかつての連携を取り戻し、農業普及指導員(初級)や農業関連機関への就職などを視野に入れた教育に取り組む必要があるのではないか？

- ・学生の質の変化、多様な学生への対応は大変だと思う。資格取得で個別対応をする。教員の対応はできるのか。

→畜産コースは上に書いてある通り現在も対応している。

(5) 学生の受け入れ・支援について

- ・定員確保の戦略は

→今年度は、過去3年間で入学してきた県内の高校で特に近隣の高校への訪問を学園長、副学園長が行った。まだまだ戦略的にはこれといった突破口が見いだせないところだが、今年度は、緩やかではあるが、入学者が増えている。チャレンジファームへの就農希望者が増えてきた。こちらの希望者増を期して取り込む方法を考えていきたい。

- ・学生募集の取り組みや入学希望者を増やすための対応が、職員の人材減や予算減のため十分行われていないと思われる。特にアグリ科の増加は、待ったなしの状況と思われ、役員を先頭に取り組みをさらに行うべきと思われる。

(6) 教員の組織編制等について

- ・本来の業務に加えて多様な雑用に追われている教員がいる一方、任務以外業務をほとんど行わない職員の存在が明白である。学園存亡の危機の状況を十分認識して、教職員一丸となって取り組むべきではないか。

(7) 教育環境について

- ・更新計画はあるか(財務計画と兼ねて)

→農業関係は、県、国の補助金(1/2)を活用して設備を更新、新設などしている。(冷凍庫、冷蔵庫、田植え機(予定)、精米機(予定)である。)

(8) 教育活動の基盤と改善について

- ・アグリ科に関しては、就農者の高齢化が顕著に進む日本農業のこれからを担う学園教育の重要性を、国や県の農業関連部署や関係団体に重ねて訴え、経済的な支

援をもう一度いられるよう取り組むべきではないか。

学生に対しては、講義や実習以外の時間にも、教員との接点を増やすべきでは。空き時間に学生ホールで過ごし、終了後そのまま下校してしまう学生が目につく。2年間という限られた短い学園での貴重な時間をより充実できるようにしてほしい。

3. 総評

本委員会は、鯉淵学園農業栄養専門学校の自己評価の結果を受けて、学校関係者評価委員により意見を具申し、もって本学園の運営の改善、発展に寄与することを目的としています。

今年度の自己評価結果や、学校関係者評価委員会における意見、助言をもとにさらに発展していく方途を探っていただき、来年度に向けた改善策を策定願います。評価のみに終わらず、具体的な改善ができるようにしてください。

今後、学校運営の問題解決にむけて委員会の内容を反映していただき、鯉淵学園農業栄養専門学校の教育の質を高めていくことを願います。

鯉淵学園農業栄養専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 * * * * *